

2023年度 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会 報告

第8期総務担当理事 木下 武徳(立教大学)

一般社団法人日本社会福祉学会2023年度定時社員総会は、2023年5月28日(日)10時から、東洋大学白山キャンパス1号館3階1307教室にて開催された。

議案はすべて承認され、10時50分に解散した。

I. 会長挨拶

一般社団法人日本社会福祉学会空閑浩人会長より開会挨拶があった。

II. 定足数確認

総務担当理事より、社員154名で定足数78名に対して、現在の社員出席者が137名(委任社員105名を含む)となったことから、定款第31条ならびに定款第32条に基づき、2023年度定時社員総会を開催し、空閑会長が議長となり議事を進行するとの開会宣言があった。

III. 議事録署名人の選出について

定款第37条第2項に基づき、議事録署名人として大島巖監事、岡部卓監事を選出した。

IV. 議事

第1号議案：(一社)日本社会福祉学会2022年度事業報告・決算・監査報告について

議長から、2023年4月28日に大島巖監事、岡部卓監事により監査が行われた「2022年度事業報告及び決算・監査報告」について審議していただきたいとの趣旨説明があった。

まず2022年度の事業報告について、総務担当理事より配付資料に基づき報告があった。学術研究集会の開催、学会機関誌の刊行、研究奨励・研究業績の表彰、関連学術団体との連携、国際的な研究活動の推進の報告があった。また、学会の組織運営に関して、会員の動向、総会・理事会及び運営委員会の開催、監査、各種委員会の活動、各地域ブロックの活動状況の報告があった。

引き続き、室田信一財務担当理事より、2022年度の学会本部事業、全国大会運営事業、出版事業、及び各地域ブロックの財務状況を含めた決算報告について、配付資料に基づき報告があった。2022年度も前年度に引き続き年会費の納入状況は堅調であり、事業も概ね計画通りに遂行されたとの説明があった。

その後、岡部卓監事より、学会業務及び経理に関わる監査報告があり、適正に業務の遂行及び予算の執行がなされているとの報告があった。

審議の結果、一般社団法人日本社会福祉学会2022年度事業報告及び決算・監査報告が賛成多数により承認された。

第2号議案：(一社)日本社会福祉学会2023年度事業計画及び当初予算について

議長からの趣旨説明に続いて、総務担当理事より2023年度事業計画の説明があり、その内容に基づいて室田財務担当理事より当初予算の説明があった。概ね2022年度を踏襲した事業計画及

び当初予算を作成しているが、2023年度は選挙の実施年度であること、また、日中韓三か国の国際学術交流において日本が幹事国となり国際学術シンポジウムを開催する年であることから、2022年度と比較して多くの予算を計上しているとの説明があった。会議の開催等は引き続きオンライン開催として旅費交通費の削減に努めることを確認した。

審議の結果、2023年度事業計画及び当初予算が賛成多数により承認された。

第3号議案:秋季大会の担当地域ローテーション案について

議長より、今後の秋季大会の開催校または開催地域をローテーションとする案について説明があった。中国・四国と九州を一つのグループにした6つの地域で秋季大会の開催を担当するローテーションを組み、そのローテーションに基づいて2年後の秋季大会開催担当校の検討および依頼等を、毎年決まった時期の理事会で確認するサイクルを確立させることにした。まずは2026年度に北海道地域ブロックからローテーションを開始する予定との説明があった。

審議の結果、秋季大会の担当地域ローテーション案が賛成多数により承認された。

第4号議案:その他

特になし。

V. 報告

I. その他

特になし。

議長は、議事終了の旨を告げ、10時50分 2023年度定時社員総会を解散した。

以上